

研究所開設 20 周年に 寄せて

常務取締役
新事業本部長

小 樽 敏 夫



当社技術研究所が千葉の地に集約・移転を遂げ、新しいスタートを切ってから早や 20 周年を迎えました。この 20 年間はわが国の産業界にとって、まさに激動の時代、危機対応の時代であり、石油危機、円高など多くの困難に直面しながら、各企業はそれぞれの自律的な経営戦略でこれを克服し、時代への対応を加速させてきたことは記憶に新しいところがあります。そして世の中は、今、21 世紀の創造という変革の時代を迎えております。

このような中において、当社では“世界最強の鉄鋼事業を基盤とする個性的な複合経営をめざす”新しい経営方針を策定し、間近かな未来—21 世紀の入口にあたる西暦 2000 年、2 兆円企業に成長して、基幹事業の鉄鋼に加えてエンジニアリング、そして新素材、化学、エレクトロニクスの分野で、高度化する社会に必要なハイテク商品群を提供すべく歩を進めております。

従って、当社の新事業展開の基本理念は、業容を拡大して新しい社会のニーズに応えるとともに、新しい価値を生み出して社会に貢献していくことにより企業としての発展を求めることであると考えております。1984 年に新規事業開発部、1985 年に新素材事業推進部を設置以来、現在 7 部よりなる新事業本部は今や導入期を経て、いよいよ展開期にさしかかったと言えましょう。

一方、周知のように、技術研究本部においては、1983 年に化学研究センター、1985 年にはこれに新素材研究センターを加えたハイテク研究所を設立、翌 1986 年にさらに LSI 研究センターを加えて、現在の 3 センター体制を確立、鉄鋼研究所とハイテク研究所が車の両輪となる体制が敷かれております。

我々が取り組んでおります新事業開発の成否は、私見によれば、社会と市場が何を求めているかを知り、事業化の最先端で新しい道を探る思考と行動、そして未踏の道を歩む勇氣にあります。また、この新しい価値の創造こそは、研究所の最も本質的な機能であり、役割であると考えます。この意味で、選定した事業分野における成功の必要条件のひとつは技術開発力にあり、また長期的視点に立ち事業の芽を育てていくにも、将来を見据えた先端・基盤研究に大きく裏打ちされております。

しかしながら、目標とする技術が従来技術の延長では達成できないほど高く、それゆえ技術的困難さが伴う場合があることも事実であります。こうした中で、他を差別化し、事業に寄与できる技術を作り上げていく原動力は、大きな目標とそれを達成するための研究開発体制および研究員個々の創造とチャレンジの風土でありましょう。その意味で、今回、技術研究本部の 20 周年を記念して発刊された本特集には、当社の新分野における最新の技術成果、新しく開発された商品やシステムの事例が数多く紹介されており、当社研究陣の新素材、化学、エレクトロニクスなど新分野にける意欲の一端をお汲み取り頂けるものと確信しております。

最後に、関係各位の日頃のご愛顧に感謝しつつ、一層のご支援をお願い申し上げ、巻頭のご挨拶といたします。